

# I 法人の概要

## 1 建学の精神

### 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』

本学の存在意義は「健康」な社会を形成するに足りる人材の養成に尽きる。健康は、人類が永遠に求め続ける理想像である。本学は、過去、現在、未来も「健康」を担う社会人を養成する大学として地域社会に存在を示して行かなければならない。健康社会実現のために地域に貢献するグローバル人材を育成する。

## 2 使命・目的

### 『健康社会の実現』

北陸大学開学式（1975年11月）において、初代林屋亀次郎理事長は「人類の文化の躍進と福祉の向上に貢献する」とし、初代三浦孝次学長は「本学は、総合大学として発展するものであり、（中略）国民の健康に奉仕する目的をもつ」とした。身体の健康のみならず、精神の健康、健全な生活を営むことのできる社会の健康、つまり、建学の精神にも宿る「健康社会の実現」が本学の使命・目的である。

## 3 教育方針（三つのポリシー）

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。

### ◆卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

#### 〈知識・技能〉

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

#### 〈思考力・判断力・表現力〉

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

〈主体性・多様性・協働性〉

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

◆教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

〈教育課程編成〉

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

〈学修方法〉

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

〈学修成果の評価〉

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

◆入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるように必要な基礎学力を身につけている人
- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

4 学部毎の教育理念、人材養成の目的、教育方針（三つのポリシー）

【薬学部】

（教育理念）

人の命と健康を守る、医療の担い手としての薬剤師の養成をもって社会に貢献する。

(人材養成の目的)

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成する。

(教育方針 (三つのポリシー) )

◆卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー : DP)

人材養成の目的に基づき、以下の能力 (知識・技能・態度) を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士 (薬学) の学位を授与する。

- (1) 医療や人の健康に携わる専門家として幅広い教養を身につけている。
- (2) 医療人としての自覚を持ち、倫理観、使命感、責任感を有している。
- (3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけている。
- (4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を有している。
- (5) 薬剤師として、チーム医療及び地域の保健・医療に参画するために必要な実践的な能力とコミュニケーション能力を有している。
- (6) 薬剤師として、個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を有している。
- (7) 論理的思考に基づく問題発見・解決能力を有している。
- (8) 薬学・医療の進歩に対応するために、生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有している。

◆教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー : CP)

人材養成の目的に基づき、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した以下の教育課程を編成する。

- (1) 医療や人の健康に携わる者として幅広い教養を学ぶため、人文科学系科目、社会科学系科目、語学系科目等を開講し、さらに1・2年次にアクティブラーニングを主体とした「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」「医療人」等の科目を提供することで薬学を学ぶ土台づくりをする。
- (2) 医療人である薬剤師としての倫理観、使命感、責任感を醸成するため、低学年では「医療人」等を、上級学年では「薬剤師倫理」等の科目を設ける。
- (3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけるため、全学年で薬学基礎系、衛生薬学系、医療薬学系の薬学専門科目を、1～4年次で各種の実習科目を開講する。
- (4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を醸成するため、低学年では「早期体験学習」を、また、上級学年では「臨床薬学実習」「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」等の体験型学習を展開する。
- (5) 薬剤師としてチーム医療及び地域の保健・医療に参画する上で必要な実践的な能力とコミュニケーション能力を身につけるため、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」を中心としたアクティブラーニング型授業に始まり、「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」「病院・薬局実務実習」「卒業研究」に至る体系的なプログラムを展開する。
- (6) 薬剤師として個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を身につけるため、医療薬学系、薬学臨床系科目を配置する。

(7) 論理的思考に基づく問題発見・解決能力を身につけるため、臨床薬学コースと薬科学コースからなる「卒業研究」を実施する。

(8) 生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに、次世代を担う人材を育成する能力・素養を身につけるため、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」から「総合薬学演習」に至る体系的なプログラムを展開する。

なお、これらのポリシーに基づき編成したカリキュラムの全容はカリキュラムマップに示し、個々の授業の目的と概要、学習目標、妥当性・信頼性のある成績評価方法、授業計画をシラバスに記載する。

◆入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

本学の建学の精神に共感し、以下の能力・意欲を持った人を受け入れる。

- (1) 薬学を学ぶにあたり、高等学校卒業程度の知識を修得し、活用する力を有する人
- (2) 薬学に興味を持ち、薬剤師として健康社会の実現に貢献しようとする強い意欲を有する人
- (3) 人とのコミュニケーションを大切にし、多様な人々と協働する態度を有する人
- (4) 基礎的科学力を身につけ、薬学分野での研究を志す人

【経済経営学部】

(教育理念)

組織や社会で活かされるマネジメント力で、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。

(人材養成の目的)

グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。

・マネジメント学科

国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養及び外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

(教育方針（三つのポリシー）)

◆卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（マネジメント学）の学位を授与する。

〈知識・技能〉

- (1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を身につけている。
- (2) マネジメント関連分野の専門知識と技能を身につけている。

〈思考力・判断力・表現力〉

- (3) 課題や解決策を見だし、論理的に表現する力を身につけている。
- (4) 経験から学び、成長する力を身につけている。

〈主体性・多様性・協働性〉

- (5) 自ら進んで他者と協働し、課題を解決する力を身につけている。

(6) 多様性や国際性を理解し、行動する力を身につけている。

◆教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

〈科目分類〉

経済経営学部のカリキュラムは、学生が「マネジメント力」を身につけるために、学問的知識の修得を重視する科目から社会での学修経験を積む科目まで幅広い領域の科目で構成される。

- (1) 「一般教育科目群」は、視野を広げ、知識への好奇心を高めることを通じて、生涯にわたって自己を支え、健康社会の実現に寄与するための科目で構成される。
- (2) 「汎用的技能科目群」は、あらゆる仕事で必要となる力（汎用的技能、ジェネリックスキル）を育成する科目で構成される。
- (3) 「専門教育科目群」は、社会科学を基盤として身につく知識と深い思考力、及び簿記会計や情報(IT)等の社会的ニーズの高いスキルを身につけるための「マネジメント科目」、並びに実社会等での実践的な学修を行う「マネジメント実践科目」で構成される。
- (4) 「自由科目群」は、教職に関する科目及び資格に関する科目、並びにリメディアル科目で構成され、卒業要件単位数には含まない。

〈履修の方針〉

本カリキュラムは、「専門教育科目群」と併せて「一般教育科目群」と「汎用的技能科目群」から科目を段階的に履修し、視野の広さと汎用的技能に支えられた専門的知識・技能を身につけるという方針をとる。

「専門教育科目群」においては、まずは「マネジメント科目」の主要5分野を横断的に履修し、その後、複数分野についての専門性を深め、単一分野の学部では身につけられない学際的な専門知識・技能の修得を目指す。

〈教育方法・評価方法〉

- (1) カリキュラムマップと連動した授業を実現するために、シラバスの科目概要、ねらい及び到達目標は、学部として組織的に管理する。
- (2) 複数クラスによって開講される科目は、授業設計及び教材の作成を担当教員が協働で行うよう努め、授業の質的向上をはかる。
- (3) 「基礎ゼミナール・キャリアデザインⅠ」「専門基礎ゼミナール・キャリアデザインⅡ」「専門ゼミナール・キャリアデザインⅢ」は、それぞれ同一担当者による連続開講とし、キャリア教育も併せて行う。なお、キャリアデザインⅠ～Ⅲの1回の授業時間は45分とする。
- (4) 授業の到達目標に対応した評価方法を導入し、教育方法の改善及び成績評価の厳格化をめざす。

〈カリキュラムの点検と評価〉

本カリキュラムについては、質保証の観点にもとづき、履修状況や学修成果等に関して、毎年度点検と評価を行う。

◆入学者受入方針（AP：アドミッション・ポリシー）

健康な地域社会、企業や組織及び自己の形成と発展に寄与し、「マネジメント力」を持った人材を養成するために、以下の能力・意欲を持った人を広く受け入れる。

・経済経営学部が求める学生像

- (1) 高校3年間を通じて幅広い学習を行っており、特に、英語・国語に関して基礎的な知識・技能を身につけている人
- (2) 自分の考えや意見を述べることができる人
- (3) 経験をふりかえり、自分の言葉で表現できる人
- (4) 目標を達成するために、他者と協力して行動できる人
- (5) 本学部でマネジメント力を身につけようとする明確な意思を持っている人

〈評価方法〉

- (1) 調査書の評定値または筆記試験で評価する。
- (2) 小論文試験または論述問題で評価する。
- (3) 調査書、エントリーシート及び面接で評価する。21世紀型スキルA0入試においては、ふりかえりシート及び面談で評価する。
- (4) エントリーシート及び面接で評価する。21世紀型スキルA0入試においては、アドベンチャープログラムを通じた自己評価、観察評価及び面談等を通じて総合的に評価する。
- (5) エントリーシート及び面接で評価する。
- (6) 入試形態との関連性

入試区分 \ 評価方法	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
21世紀型スキルA0入試	○		◎	◎	◎
スポーツ推薦入試	○		○	○	◎
指定校推薦入試	○		○	○	◎
一般推薦入試	○	◎	○	○	◎
専門高校・総合学科推薦	○		○	○	◎
一般入試	◎	○			
センター入試	◎				
帰国子女・社会人入試	○	◎	○	○	◎
留学生入試	○		○	○	◎

◎当該入試で特に重点的に評価する項目      ○当該入試で評価する項目

【国際コミュニケーション学部】

(教育理念)

コミュニケーションをとおして、平和で豊かな多文化共生社会の実現を目指す。

(人材養成の目的)

地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。

・国際コミュニケーション学科

実践的な語学運用能力・コミュニケーション能力を基盤とし、世界の多様な価値観、及び日本そして地域の魅力と強みを理解し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚

を持ったグローバル人材を養成する。

(教育方針 (三つのポリシー) )

◆卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー : DP)

人材養成の目的に沿って、以下の要件の満たし、所定の単位を修得した者に、学士 (文学) の学位を授与する。

〈知識・理解〉

- ・英語又は中国語の実践的な運用・コミュニケーション能力を身につけ、国際情勢と日本、特に北陸の魅力と強みを理解することができる。
- ・獲得した知識を活用することによって、経験したことのない状況においても物事の本質を捉えるための判断基準、すなわち知識の枠組みを身につける。

〈態度・思考〉

- ・留学や海外研修、海外インターンシップなどを通して、グローバル社会に飛び出そうとするチャレンジ精神を身につける。
- ・異文化を尊重し、違いを許容して、よりよい社会を目指して共生しようとする思考を身につける。

〈汎用的能力〉

- ・留学生との交流やフィールドワークでの協働体験、海外留学や海外研修、海外インターンシップを通じて、多様な文化的社会的背景を持つ人々と共生し、協働できる力を身につける。

〈総合的な学習経験と創造的思考力〉

- ・課題解決型学習 (PBL ; Problem Based Learning) やフィールドワークなどを通して、地域社会のリアルな課題に取り組み、正解のない問題に対しても獲得した知識を活用して考え抜く力を身につける。

◆教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー : CP)

国際コミュニケーション学部では、国際的視野と異文化への理解を涵養し、実践的な語学運用能力・コミュニケーション能力を獲得させ、日本及び外国の文化に対する専門的な知識を修得することにより、地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、語学力を通じて地域と世界をつなぐ人材育成を図るため、次の6点を基本として教育課程を編成する。

- (1) 初年次には英語・中国語二言語を学修し、2年次以降はいずれかの言語を集中的に学ぶことで実践的な外国語の運用・コミュニケーション能力を段階的に向上させる体系的な教育課程とするとともに、外国語学修を通して異文化への知識と理解を積み上げて学修させる。
- (2) 地域の活性化に寄与する文化・観光及び国際関係の専門知識と理解を積み上げて学修する。さらに領域間の関連性があり、学生の興味関心が深まるよう工夫された教育課程とする。
- (3) 初年次を中心としてリテラシー (知識活用力、日本語リテラシー) を養成する科目を配置するとともに、アクティブ・ラーニングを重点的に導入する。
- (4) 実践的な語学運用能力を高めるため、卒業までに全員が海外留学や海外研修に参加可能な教育課程とする。

(5) 課題解決能力の向上と協働経験のため、地域や国際社会をフィールドに、各領域が連携するプロジェクト型科目を配置する。

(6) 社会とのつながりを意識しつつ学修経験を振り返り、将来の目標を立てられるようになるためにキャリア科目を配置するとともに、社会人の素養として求められる基礎的な人文科学、社会科学、自然科学の科目を教養科目として配置する。

◆入学者受入方針（AP：アドミッション・ポリシー）

地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材の養成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れる。

・国際コミュニケーション学部が求める学生像

(1) 大学で学ぶことで、自らが成長し、将来の目標や展望を持ち、主体性を持つ自立した社会人になりたいという意思を持つ人

(2) 人とのコミュニケーションを大切にし、多様な人々との協働等によるさまざまな学修を通じて、地域の活性化に積極的に貢献したいと考える人

(3) 英語・中国語など外国語学修及び海外経験等に関心を持っている人

(4) 基礎的な学習を行っており、大学の授業を理解できるための日本語リテラシーを持つ人

(5) 基礎的な英語や中国語の外国語運用能力を持つ人

入学者選抜では、大学入試センター試験、個別学力検査、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

入学後のコミュニケーション教育に十分に対応できる資質として、国際的な広い視野と外国語によるコミュニケーション能力を備えていることを重視する。そのため、外国語の基礎的な能力と文系科目（社会、国語等）の考え方や知識が必要であり、高等学校段階においてこれらの教科の履修が望ましい。

【医療保健学部】

(教育理念)

生命を尊び、医療の進歩に対応して、臨床検査学・臨床工学分野から人々の健康に寄与する。

(人材養成の目的)

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する。

(教育方針（三つのポリシー）)

◆卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

人材養成の目的に沿って、以下の要件の満たし、所定の単位を修得した者に、学士（医療技術学）の学位を授与する。

〈知識・理解〉



- ・医療技術者としての知識と技能を理解している。
- ・医療人としての倫理観、使命感、責任感と幅広い教養を身につけている。

〈思考・判断〉

- ・医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。

〈関心・意欲〉

- ・日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。

〈態度〉

- ・医療技術者としての使命感や責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

〈技能・表現〉

- ・修得した医療技術を安全に実施することができる。
- ・医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

◆教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

医療保健学部医療技術学科の人材養成の目的を達成するために以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

- (1) 医療人として幅広い教養を修得させるとともに、コミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
- (2) 医療現場で必要となる実践的な知識と技能を修得するために必要な臨床検査学、臨床工学の基礎的な知識を深めるための科目を配置する。
- (3) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の現場で、臨床検査学、臨床工学の領域で修得した知識と技能を安全に実施する医療技術者を養成するための科目を配置する。
- (4) 科学的根拠に基づいた問題解決能力を養い、生涯を通して学び続ける姿勢を身につける科目を配置する。

◆入学者受入方針（AP：アドミッション・ポリシー）

医療保健学部医療技術学科では、医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者の養成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れる。

・医療保健学部が求める学生像

- (1) 医療の知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している人
- (2) 人を思いやる心と協調性を持って取り組むことができる人
- (3) 物事を論理的かつ多面的に考察することができる人
- (4) 何事にも積極的に取り組むことができる人
- (5) 医療・保健に対する意欲や関心が高く、この分野に貢献したいという熱意のある人
- (6) 自らの考えを明確に伝えることができる人

入学者選抜では、大学入試センター試験、個別学力検査、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

医療技術学科における基礎となる理論や科学的考察には、理系科目（数学、物理、化学、

生物) の考え方や知識が、また、論理的文章力及びコミュニケーション力には文系科目(国語、英語) の知識が必要であり、高等学校段階においてこれらの教科の履修が望ましい。

## 5 所在地

法人本部

経済経営学部、国際コミュニケーション学部、医療保健学部、未来創造学部、留学生別科

〒920-180 石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地

薬学部

〒920-1181 石川県金沢市金川町ホ3

## 6 法人の沿革

- 1975年 2月 学校法人松雲学園設置  
4月 北陸大学開学 薬学部開設 薬学科(定員80人)・衛生薬学科(定員60人)計140人
- 1976年 4月 薬学部定員増 薬学科(定員120人)・衛生薬学科(定員100人)計220人
- 1979年 4月 大学院薬学研究科修士課程開設(定員20人)
- 1983年 4月 大学院薬学研究科博士課程開設(定員5人)
- 1985年 7月 学校法人北陸大学に法人名称変更
- 1987年 4月 外国語学部開設 英米語学科(定員120人)・中国語学科(定員40人)計160人
- 1990年 4月 外国語学部臨時定員増 英米語学科(定員165人)・中国語学科(定員55人)計220人
- 1992年 4月 法学部開設 政治学科(定員100人・臨時定員50人)・法律学科(定員100人・臨時定員50人)計300人
- 1994年 4月 留学生別科開設(定員30人)
- 1995年 4月 外国語学部英米語学科編入学定員設定(定員35人)
- 2001年 4月 薬学部定員増 薬学科(定員140人)・衛生薬学科(定員140人)計280人  
外国語学部定員減 英米語学科(定員120人・臨時定員15人)・中国語学科(定員40人)計175人  
法学部定員減 政治学科(定員100人・臨時定員15人)・法律学科(定員120人・臨時定員15人)計250人  
外国語学部中国語学科編入学定員設定(定員10人)
- 2003年 4月 法学部編入学定員設定 政治学科(定員40人)・法律学科(定員80人)  
留学生別科定員増(定員70人)
- 2004年 4月 外国語学部及び法学部の未来創造学部への改組・入学定員の変更  
薬学部定員増 薬学科(定員230人)・衛生薬学科(定員230人)計460人  
未来創造学部開設 未来社会創造学科(定員100人・編入学定員120人)・  
未来文化創造学科(定員100人・編入学定員45人)計365人
- 2006年 4月 6年制薬学部設置に伴う入学定員及び修業年限の変更  
薬学部薬学科(入学定員306人)修業年限6年
- 2008年 4月 未来創造学部 新学科設置  
国際教養学科(定員100人・編入学定員45人)・国際マネジメント学科(定員100人・編入学定員120人)計365人
- 2014年 6月 大学院薬学研究科(4年制)廃止
- 2017年 4月 医療保健学部開設 医療技術学科(入学定員60人)  
未来創造学部の改組  
未来創造学部国際マネジメント学科を経済経営学部マネジメント学科に名称変更・  
入学定員変更(入学定員200人・編入学定員123人)  
未来創造学部国際教養学科募集停止 国際コミュニケーション学部開設  
国際コミュニケーション学科(入学定員80人・編入学定員20人)  
薬学部薬学科入学定員変更(入学定員220人)
- 2019年 4月 薬学部定員減 薬学科(入学定員200人)  
経済経営学部定員増 マネジメント学科(入学定員230人・編入学定員123人)

7 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開設年月	学部・学科等	摘要	
北陸大学	学部	1975年4月	薬学部 薬学科	
		2008年4月	未来創造学部 国際教養学科	2017年4月募集停止
			未来創造学部 国際マネジメント学科	2017年度入学生から経済経営学部マネジメント学科に名称変更
		2017年4月	経済経営学部 マネジメント学科	
	医療保健学部 医療技術学科			
別科	1994年4月	留学生別科		

8 設置する学校・学部・学科の入学定員、収容定員と学生数 (2019年5月1日現在)

北陸大学

学部

(単位：人)

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	学生数
薬学部	薬学科	200	0	1,558	786
経済経営学部	マネジメント学科	230	123	753	845
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80	20	260	282
医療保健学部	医療技術学科	60	0	180	194
未来創造学部(注1)	国際教養学科	0	0	145	101
	国際マネジメント学科	0	0	220	226
	小計	0	0	365	327
合計		570	143	3,116	2,434

(注1) 2017年4月に国際教養学科募集停止、国際マネジメント学科は2017年度入学生から経済経営学部マネジメント学科に名称変更している。

別科

(単位：人)

別科	入学定員	収容定員	学生数
留学生別科	70	70	56

※秋季入学生を受け入れている。(2019年10月1日現在：学生数 130人)

9 役員の概要 (2019年5月1日現在)

定員数：理事 7人以上12人以内、監事 2人

理事長	小倉 勤	(学長兼務)
専務理事	周 航	(財務・国際交流担当)
理事	泉 洋成	(労務・大学評価・渉外担当)
理事	大桑 和雄	(総合企画局長兼務、企画・広報担当)
理事	南野 茂	(事務局長兼務、総務・人事担当)
理事	三浦 雅一	(教育・研究・地域連携担当)
理事	野村 卓三	(非常勤)
理事	山本 晴一	(非常勤)
監事	光田 明正	(非常勤)
監事	石原 多賀子	(非常勤)

(理事 8人、監事 2人)

10 評議員の概要 (2019年5月1日現在)

定員数：15人以上25人以内

青野 縣一	荒川 靖	泉 洋成	浦 正明	大桑 和雄
小倉 勤	木下 雅之	西能 徹	柴田 宏	周 航
中越 元子	野村 卓三	桧森 隆一	本田 吉夫	三浦 雅一
南野 茂	村田 慶史	山本 啓一	横山 亮一	渡辺 久恭

(20人)

1 1 教職員の概要 (2019年5月1日現在)

専任教員数

(単位：人)

所属	職位	合計	性別		年齢構成				
			男	女	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
学長		1	1						1
副学長		2	1	1					2
薬学部	教授	19	15	4			4	11	4
	准教授	12	7	5			6	5	1
	講師	14	11	3		1	9	2	2
	助教	4	2	2			2	2	
	助手	3	1	2			1		2
計		52	36	16	0	1	22	20	9
経済経営学部	教授	16	16				4	8	4
	准教授	4	4				3	1	
	講師	3	3			1	2		
	助教	5	3	2	4	1			
計		28	26	2	4	2	9	9	4
国際コミュニケーション学部	教授	5	4	1			1	2	2
	准教授	3	2	1			1	1	1
	講師	8	4	4		3	4	1	
	助教	0							
計		16	10	6	0	3	6	4	3
医療保健学部	教授	7	6	1					7
	准教授	4	2	2			2	1	1
	講師	3	3			1	1		1
	助教	0							
	助手	2	1	1		1	1		
計		16	12	4	0	2	4	1	9
国際交流センター	教授	1	1						1
	准教授	3	2	1			1		2
	講師	5	1	4		3	1	1	
計		9	4	5	0	3	2	1	3
留学生別科	准教授	2		2			1	1	
	講師	1	1				1		
計		3	1	2			2	1	
合計		127	91	36	4	11	45	36	31

非常勤教員数	71
--------	----

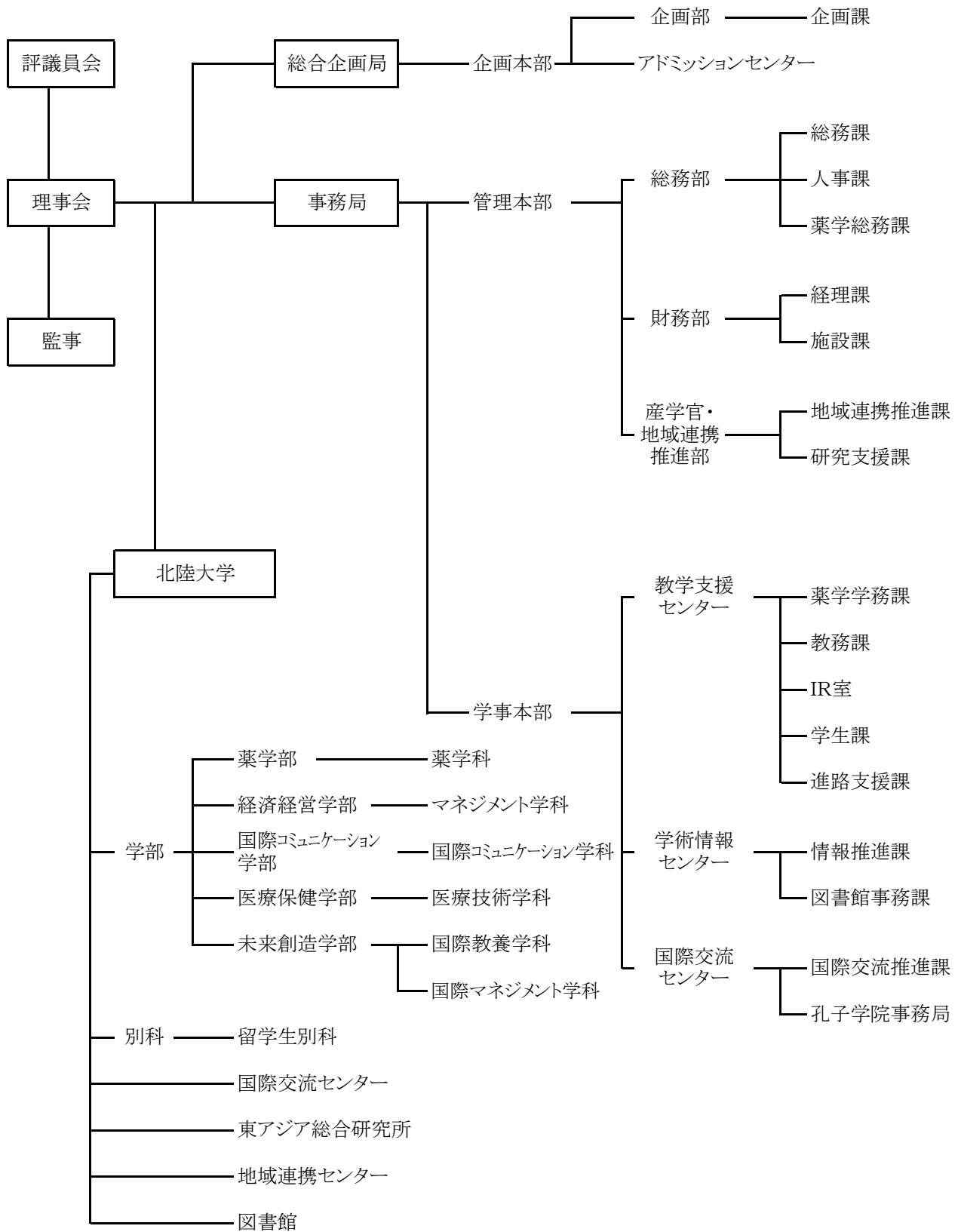
職員数

(単位：人)

区分	合計	性別		年齢構成				
		男	女	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
常勤	80	47	33	6	16	28	20	10
非常勤	5	3	2	1			1	3
合計	85	50	35	7	16	28	21	13

1 2 組織図

2019年5月1日現在



### 1.3 大学等との連携の状況

北陸大学は、下記の世界62校の大学等とパートナーシップを結んでいる。

国・地域	学校名	国・地域	学校名
中国	北京大学	日本	金沢医科大学
	北京中医薬大学		北陸先端科学技術大学院大学
	北京語言大学	アメリカ	カリフォルニア大学リバーサイド校
	北京第二外国語学院		オハイオ大学
	蘇州大学		ジョージタウン大学
	上海外国語大学		ハワイ・パシフィック大学
	常熟理工学院	オーストラリア	ウーロンゴン大学カレッジ
	安徽三聯学院		フリンダース大学英語学研究所
	西安外国語大学	ニュージーランド	マッセー大学
	天津外国語大学	イギリス	ロンドン・メトロポリタン大学
	青島科技大学		リージェンツ大学ロンドン
	四川外国語大学	ドイツ	ハインリッヒ・ハイン大学デュッセルドルフ
	瀋陽薬科大学	スペイン	マドリッド自治大学
	東北師範大学	ロシア	極東連邦大学
	瀋陽航空航天大学		ハバロフスク経済法科大学
	瀋陽師範大学	タイ	ランシット大学
	瀋陽化工大学		ウォンチャワリックン大学
	北華大学	インドネシア	ビナ・ヌサンタラ大学
	吉林華橋外国語学院		スラバヤ国立大学
	延辺大学	マレーシア	トウンク・アブドゥル・ラーマン大学
	大連外国語大学	カンボジア	パンニャサストラ大学シェムリアップ校
	遼寧師範大学	モンゴル	モンゴル人文大学
	大連大学	韓国	慶熙大学校
	大連民族学院		慶南大学校
大連東軟信息学院		東国大学校	
大連工業大学芸術與信息工程学院		祥明大学校	
南京大学	台湾	中国文化大学	
江蘇師範大学		建國科技大学	
広東外語外貿大学		淡江大学	
温州医科大学		国立高雄第一科技大学	
南京農業大学			
首都体育学院			

### 1.4 自治体、高校等との連携の状況

北陸大学は、下記の自治体、高校等と連携協定を締結している。

区分	連携先	区分	連携先
自治体	金沢市	団体	石川県薬剤師会
	加賀市		福井県薬剤師会
	輪島市		富山県薬剤師会
	小矢部市		金沢青年会議所
高校	富山県立滑川高校		協同組合兼六園観光協会
	石川県立金沢辰巳丘高校		卯辰山麓地区まちづくり協議会
	富山県立伏木高校		東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
	私立金沢高校		石川県臨床工学技士会
	私立富山第一高校		石川県臨床衛生検査技師会